

令和5年度第2回千葉県文化芸術推進懇談会 開催結果

- 1 日時 令和5年8月24日(木) 午後3時から5時15分まで
- 2 場所 ホテルプラザ菜の花 4階会議室「楨」
- 3 出席委員 (委員総数11名中9名出席) (座長・副座長以下50音順)
草加座長、石橋副座長、植田委員、垣内委員、菊池委員、こまちだ委員、
佐々木委員、椎名(喜)委員、椎名(誠)委員

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事
 - (1) 次年度以降の文化振興施策について
 - (2) 次期「千葉県文化芸術推進基本計画」の策定について
 - (3) 次期計画策定にあたっての懇談会の体制について
- 4 閉 会

5 議事概要

(1) 次年度以降の文化振興施策について

資料1により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見交換概要>

【副座長】

まず障害のある人の芸術活動を積極的に支援する方法だが、私どもの取り組みの中で、年間で百数十人の障害のある子供たちをコンサートに招待することや、県内3ヶ所から4ヶ所の福祉施設でのアウトリーチ公演など行っている。

課題に思うこととして、招待する時、コンサートは土曜日・日曜日開催が多く、障害のある方などは1人では来られない方が多いので、ご家族やその施設の方がついて来ていただかなくてはいけなくて、その辺りの負担がもう少し軽減できたらと感じている。

伝統芸能を絶やさず後世に残す取り組みだが、私どもも伝統芸能スコラという講演を昨年から取り組んでいる。スコラというのは、教室のような、学校という意味であるが、例えば今年は「日本舞踊について」など年間のテーマを設けながら進めているところ。

集客は苦勞しているが、興味のない人を無理やり呼んでも仕方がないと思っ
ていて、子供たちにいかに興味を持って主体的に参加してくれるかというところ
を課題として取り組んでいる。

回を重ねるごとに参加者数も増えてきており、昨年より今年の方が参加者は
多くなっている。

新型コロナで大きな影響を受けた文化芸術の振興について、私ども、県立文化
会館を4館管理している。そのうち1館、千葉県文化会館は休館中だが、残りの
3館は利用者が確実に増えおり、コロナ前にかなり近い状況になってきていること
を実感している。ただ、貸館事業にしる主催事業にしる、来られるお客様に関
してはやはりコロナ前までは達していないというのが現状。徐々に回復してい
くのかなとは思っている。

実際、先月南総文化ホールで劇団四季の公演を行ったが、千人以上の集客があ
ったし、今月南総でスタニスラフ・ブーニン（ピアニスト）のコンサートも予定
しているが、それも満席になっているので、見る方々も、様子を見ながら少しづ
つ参加傾向にあるのかなと感じている。

続いて美術館、文化施設の立地を生かした積極的な利活用（地域振興）、特に
地方のホールに感じることだが、中央は人口が多いから、千葉県文化会館にしる
青葉の森公園芸術文化ホールにしる、ある程度利用者が多いので、貸出し施設と
して埋まってる。ただ、旭市にある東総文化会館、館山市にある南総文化ホール
はやはり地方なので、常に人がいる状態にはない。ではどうやって人を増やして
いこうかということで、文化会館の一部をギャラリーとして、地域の消防のポス
ター（小学生が描く防災のポスター）だとか、そういったものをロビーなどに貼
り付けて、いかに空いている日に立ち寄ってもらえるかという工夫をしていき
たいと思っているが、実際にどれくらいの人に来てくれるかということ、まだま
だ発表できるような数にはなっていないのが現状。

若者の発表の場の拡大・支援対象の固定化傾向、これはやはり情報発信を続け
なきゃいけないと思う。今、好きなものが多様化しすぎているので、例えば一昔
前だったら50代60代はみんな演歌が好きで、その年代の人に来てもらいたい
のであれば演歌をやれば皆さん来てくれた。ただ、今は若者の文化活動も色々な
ことに多様化しているので、なかなか難しいと思うが、県民だより等で複数回掲
載すると色々な方の目につくんじゃないかと思う。

150周年を契機とした取り組みが一過性とならない、継続されていくような取
り組み、これは当然我々の文化振興財団としても考えていかなきゃいけないテ
ーマだと思っているので、いろいろご意見を承りたいと思っている。

【事務局】

先ほどの説明に補足するが、受け手が魅力的に感じる効果的な広報活動ということで、本県では県民だよりやSNSなど、県で持っている媒体を駆使し色々な文化芸術関係の情報発信を行っているが、それが効果的に行えているかどうか、課題に感じている。委員の皆様において、色々な媒体で情報発信をされているようであれば御意見をいただきたい。

【座長】

SNSは何をやられているのか。

【事務局】

県の公式SNSは、X(旧名称:Twitter)やFacebook、事業によってはYouTubeの広告などもある。

【座長】

XやFacebookはインタラクティブ(双方向)だが、インタラクティブに対応しているのか。先ほどのYouTubeはどちらかというワンウェイ(一方通行)、発信しているだけ。ホームページもほぼワンウェイ。XやFacebookというのは、アンサーバックできるので、それぞれの情報発信システムの機能をうまく使っていくという方法はあると思う。

ワンウェイに流す方法だと、評価できるのはフォロワーがどれくらいいるかどうか、Facebookだったら友達申請がどれくらいあるかということが評価になる。

誰かがアンサーバックを上手く活用するとか、インフルエンサーを活用するとか。我々でもインフルエンサーを使うことがあり、ワークショップに参加してもらい、体験を書いていただく。インフルエンサーを使って情報発信していくこともある。それだけフォロワーを持ってる人がいるので、上手く使っていけばよい。それも色々な広報手段の一つである。

【委員】

広報活動の話があったので、これに関係して少しお話をさせていただければ。

確かにSNSは今のご時世どこでもやっていると思う。うちもやっている。ただこれやってるということで、今までは紙媒体だけだったものを今のご時世に合わせてXやFacebookをやってますということだと、やってるやってないという事実ではなくて、例えば1週間、アカウントをちゃんと見ていたり、双方向をやっているっていう形の確認までやって初めてやってるという感じになる

のかなと思う。千葉市文化振興財団の話をさせていただくと、本当に若者向け高齢者向け、女性から男性からすべて世代に応じた形の様々な催し物を行っているが、それを全て同じようなスタイルでホームページに載せても反応が良いわけではない。やはり対象者に絞った形、どこをつけば、こういった形で見てくれるというような形を事業ごとに考えないと。チラシの掲示や県民だよりや市政だよりの掲載だけではなかなか来てくれない。対象者を絞った形で、どこをつけば興味を持ってくれるかということ、事業ごとに考えていく必要があるのかなというふうに思っている。

仮に先ほどのFacebookであれば、開催するコンサートの一部分をFacebookの方で出すことで、タイトル名だけではなかなか想像がつかないけれどもこういうことなんだなと知っていただき、集客に繋げる。そんな仕組み、取り組みが大切なのかなというふうに、思っている。

【座長】

課題に対して、それぞれのカスタマイズされたアプローチを考えていくというのが重要だというお話だったように思う。

【委員】

まず広報活動、先ほど話があったが、色々な団体が色々なことを努力されているが、やはり動画や画像等のビジュアル情報、それと楽屋裏など、出演者のインタビューとか、そういった他で見れないようなものを発信されると、割とチケットが売れるというふうに聞いている。

普通の一般的なメディアではわからないような情報というのは、それなりのニーズがあるということと、それからこれは文化の分野に限るものではないが、今、発信だけでなく、受け手が拡散して情報が自発的に広がっていく世界のようなので、著作権処理等の問題等もあるかもしれないが、できるだけ色々な人に興味を持ってもらい、自分のコミュニティーに発信・再発信していくということも考えるといいのかと思う。

かつてオペラなどは新聞広告を出して広報していたが、今それでは全然チケットは売れないということで、オペラが好きな方のコミュニティーにターゲットを寄せていくということが多い。また、自団体でコミュニティー等をもっていれば、その会員を通じて出すというようなことも国際的にも行われていると聞いている。

伝統芸能については後継者難だと聞いている。金銭的な問題ではなく、お金ももらっても続かないということ。この後継者難をどうするのかというのは、実はもうコロナの前から大きな課題で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、その前

からあった問題がより鮮明に浮かび上がったのだと思う。

コロナ禍の底は多分 2020 年だが、2020 年で、観客動員数が劇場系でいうと 7 割ぐらい減っている。2021 年で 6 割ぐらいまで戻り、2022 年で 8、9 割戻るといふ感じ。また、観客の動きでいうと、チケットは直前まで買わない方が増えた。また何かあるかもしれないし、買わなくても売り切れないだろうということもあり、ぎりぎりまで待って買うということ、なかなか集客の予想が読みきれないというところがある。財政的に弱いところはもたなくなっている感じがしている。

どこの芸術団体も文化施設も、将来の観客をつくるということで、子供向けのアウトリーチがブームになっているが、対応する学校も忙しい。

なかなか難しいところがあると思うが、次代を担う人たちが今の人たちよりもより多く鑑賞してくれないと、今の集客レベルを維持することもできないのではないかな。学校連携は少し無理してでもやったほうが良いのではないかなと思う。

あと、ここで発表の場の拡大と書いてあるが、これは何を対象としているのか。例えばストリートダンスとかだと、別にきちんとした施設ではなくて、むしろ規制緩和して駅前の広場とか公園とか、そういったところを使えるようにしたほうがよりいいという事も多いと聞いているが。発表の場の拡大っていうのはそういうところではないのか。それとも、一般的に、例えば、吹奏楽の発表のように設備の整った施設でやることを想定しているのか。

また、施策の柱 5「ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信」というところだが、前から色々なところで聞かれているとは思いますが、千葉県は食文化が素晴らしいと思う。食文化は計画に関わっているのか。150 周年のロゴも、宝船に落花生とイセエビとタイが描いてある。食文化とか、ブランドづくりとか観光とかその辺りは、特に取り組まなくていいということか。

【事務局】

発表の場の拡大というのは、委員が仰る一般的な方。若者の文化芸術活動支援や、文化芸術団体の方々が活動していく中で、その活動を発表する場所、劇場とか、そういったところの発表できる場所がなかなか増えないところを課題に感じている。

【事務局】

若者の話が出たが、逆に伝統芸能を継承していても披露するところがないとか、限定的なお披露目になるという課題もある。

【委員】

伝統芸能を披露する場って、寺社仏閣であると、私は東京に住んでいるが、神社の境内で神楽をやるという、もうその日にチケットが売り切れる。外でやるというのは制約も大きいとは思いますが、場所とコンテンツのマッチングが良ければ、非常にニーズは高いというふうに思う。

若い人たちも、先ほど副座長がおっしゃったように、非常に価値観が多様化しているので、どこか一つそこに補填すると、補助金を受ける方の固定化は避けられるのではないかと。

【事務局】

御質問のあったもう1点だが、千葉の強みを生かした代表的なものとして150周年記念事業というものを挙げているが、他の課の事業で、千葉の新しい食文化の創造・発信というものをやっておき（千葉の野菜や魚介類を生かし、また千葉は醤油も有名なため隠し味として醤油を入れた「黒アヒージョ」を新しい食文化として発信している）、また、千葉の海をブランド化して海の文化を発信するなど、そういった取り組みを150周年以外でも行っているところ。

計画においてそれらの取組は含まれているが、今回の議題1については、当課の今後の施策というところで、記載は省略している。

【委員】

食文化と文化的景観はほぼ一体なので、文化財のうちの文化的景観、例えば海や山間地の景観、そこで育まれる食文化。素晴らしい観光資源でもあると思うが、そういった取り組みを別の課でされているのか。

【事務局】

当課の事業の中で、ちば文化資産という事業があり、文化的景観も含まれているし、食文化は伝統料理の太巻きや、竹岡ラーメンなども含まれている。そういった取組もしている。

【委員】

今お話があった観光面と食文化と、景観という部分で、私どもの地域で今、かき氷を食文化として捉えて、かき氷コレクションという取組を行っている。全国的にかき氷のブームになっている中で、地の食材なども使いながらやっているところ。取組としてスタンプラリーを行っているが、もともとは紙にスタンプを押してもらって食べ歩くというものだったが、昨年からはデジタルスタンプラリーを始めた。スタンプラリーをする上で、メールアドレスなど登録してもらおうわ

けだが、登録してくださった方々には、地元情報を発信していたり、登録された方々のコミュニティーみたいなものも作ったりしている。

昨年スタンプラリーに参加された方々に今年はいつから始まりますよとか、それだけではなくお祭りがいつありますということなども発信を行っている。

かき氷から派生して、今年は少し文化を巡るようなスタンプラリーというものを地域の中でやっというふうな話も出てきているので、その合わせ技で少しずつ展開していこうと思っている。

SNSの発信だが、やはり、先ほどのスタンプラリーに参加した方やその仲間の方々が行って拡散をしてくれるかどうかというのが、広く進めていくためにはSNS仲間が集まるような方々にお願いをして、発信をしていただいているというような状況もあるので。ホームページは固定のものとして当然あった方がいいが、たくさんの人に色々知っていただくという意味では、やはりインフルエンサーを上手く使うこと。食文化のツアーなんかも実際にインフルエンサーの方々に何名か集まっていたいただいて食べ歩いていただき、それをどんどん発信・拡散していただくというようなことも、現場の方では取り組んでいる。

【委員】

この課題の中で、別にこれが正しいというわけではないが、意見として。

私ども、千葉県の観光情報「まるごとe!ちば」というホームページを作っているが、海外向けの発信もしている。

SNSについても、海外に向けては「見る側」の立場になって出せているかということが重要かと思う。私どものSNSでは、各国の方が、自分たちの目で見てきたものを発信している。これを見て欲しいというものではなくて、自分たちで見たか、彼らがどう見て感じたものをどう発信できてるかがキーポイント。我々が千葉県で見てもらいたいというものを外国の方がどういうふう感じて、(国によっても全部考え方が違うので) その辺を文化芸術の中にどうやって伝えてもらうか。

ターゲットが日本人なのか、若い人なのか年配なのかそれぞれ違うだろうが、その辺絞った方が良いのかもしれない。

美術館や文化施設の積極的な利活用、地域振興ということで、努力されているかと思うが、施設側の計画だとか、都合に寄りすぎていないか。施設側からの使用方法の提案や、逆に利用者に対して要望を募る等を行っているのか。

施設側が用途を限定して制限を多くしているのではないのかという気はしている。その辺もう少し、柔軟に利用できるというところを売り込まないと利用者は聞いてくれないと思う。どうせ使えないものだと思ってる方が結構多いので。一例だが、地元の文化センターでも、いつも同じクラブの人たちが使っているた

め、どうせ使えないと思っている人が結構多いと思う。

あともう 1 点だけ、伝統芸能というのは私の考え方として、高尚な伝統芸能ではなく、お祭りやお囃子等も伝統芸能だと思っているが、やはり後継者がいなくなっている。特に子どもが少なくなってきたので、大変困っている。

地域では中学校や高校でお囃子を部活動にしてくれているが、お祭りは大体神社が後ろについているので、行政的にそれを補助するのがなかなか難しいということが多いのではないか。その辺を上手く、予算をつけられるような仕組みを作ってくれたらいいなと思っている。ぜひその辺上手く考えていただきたい。

今回 150 周年の色々な事業でお祭りとか入っているが、例えば神社がやるお祭りには県とか市が何か補助しましょうとはなかなかならないと思う。市民まつり等はもう市が入っていたりするのでできるかと思うが、神社が主催で氏子がやっている、なかなか助成が入りづらいところもあると思う。

ただ実際、文化芸術ってそういう伝統芸能と繋がっていくから、それをうまく支援できる仕組みができたらいいなと思う。ぜひそれをご一考いただければ。

【委員】

佐原の方でも伝統芸能ということで、小学校、中学校、高校と伝統芸能部というものがあり、地元の子供たちがカバンにリコーダーではなく横笛を差して学校へ行っている。毎年秋に、子供たちが日頃部活等で培ったものを披露する場ということで、まちぐるみの芸術祭みたいなものの中で披露したり、或いは、お祭りの近く、お囃子の下座舟というのを小野川の方で流して演奏したりしているが、そういう時にも、中学生なり高校生なりに場を提供するというようなことを行っている。また、伝統芸能のプロの方と一緒に演じられるような場面を作って、本物を勉強しながら、自分たちのモチベーションにするということも取組んでいる。

先ほど、神事になってしまうとなかなかという話があったが、佐原の大祭は世界遺産になっているが、基本的に地元のお祭り、神社の「付け祭り」ということで、自分たちの祭りという位置付けで神事と切り分けをしている形なので、地域の中で、そういった工夫ができればと思う。

どうしても神社だと政教分離の話になってきて、なかなか行政としては難しいという部分があると思うが、自分たちの祭りという位置付けで展開することができれば、普通の祭りと同じような位置付けで支援をしてもらえることが考えられるのではないかと思う。

【委員】

今付け祭りという表現が出たが、確かに付け祭りの部分については、神事と切

り離された部分がある。例えば埼玉県の秩父祭りでも江戸時代の終わり頃に、贅沢をするなということ屋台の数を減らせという話があったが、その時にこの行事は付け祭りであって神事ではない、神事はちゃんとやるんだという言い方をしている。

祭りの維持に当たって、祭りを残していく、あるいは伝統芸能を残していくということは、人を残すことにつながると思う。どうやったら人を守れるのか、人を守ることが文化を守ることになるわけなので、その辺少し工夫をしないといけないのではないかな。

【委員】

私は千葉大学でデザイン文化計画という、多分あまり世の中に存在しない分野を専攻している。

デザインというと大体、ものの色・形を美しくして、販売につなげるということだが、文化という言葉をあえて入れており、その文化と今回のこの文化振興施策というのが、近いものだと解釈している。

皆様がお話されたように、文化って結局は人だと思う。いくらものを美しくデザインしても、ものに文化が入るわけではないので。やはり人がどう学んでいくか。情報をいかにきちんとシェアをして、ある種、同じ方向を向きつつ、何らかの社会的な動きを発生させていく。またその経験がその人に戻っていくわけでもあるし、その周囲にも広がる。

千葉県は資源がたくさんあるが、必ずしも共有されているわけではないような気がしている。先ほどの食文化の話もそうであるし、今回、海のブランドデザインにおいて千葉大学も協力したが、万祝という千葉県のいわゆる漁師の晴れ着、江戸時代以降、中後期からおこった晴れ着の柄を使わせていただいたが、そういったものも結局博物館の中に眠っている。何か良いモデルがあるわけではないが、こういった資源を何か活用していく。

実はこの活用というところがまた私はデザインだというふうに解釈していて、何らかの資源を活用する動きというのを、県の方でも、積極的に支援をしていただく、そういうような形で実験的な試みをしていくというのも一つやっていきたいことでもあるし、ぜひご支援をいただきたいところでもある。

千葉県の人々のおおらかさと資源の豊かさを考えたときに、何かチャレンジをしても、非難する方ってあまりいないのではないかなというように気がしており、博物館等々でもテーマを作って、色々な取り組み、企画展等々がされると思うが、その時にそれと何かを組み合わせていくとか、何かこうチャレンジングな、ちょっと刺激になるような動き、スパイスというような何かを入れていただけるといいのかなと思う。

実は大学もコロナで動きが止まってしまい、急に学べといってもなかなか腰が重い学生が多い。やはり何らかの動きを作っていく。そんなスパイスをぜひ与えていただけるといいなと思う。

【委員】

私は伝統文化の部分と障害者アートの部分、そして教育の部分で三つのことをお話しさせていただければと思う。

まず参考までに、実は障害を持った方が伝統芸能分野の中に入っている地区もある。石見神楽(いわみかぐら)とか、和太鼓の方だが、長崎の南高愛隣会(瑞宝太鼓)とか。自閉症の方などはリズムをとるのがお上手なので、それを活用して伝統文化の中に入って披露している県や社会福祉法人もある。

なかなか障害のある方を今あるコミュニティーの中に入れるということ自体が難しいこともあるかもしれないが、社会福祉法人の中で音楽に興味のあるところにお声掛けをしてみるというのも、方法の一つかなとは思っている。もうすでに成功しているところもあつたりするので。

また、伝統工芸の部分の下ごしらえというか、そういったところに社会福祉法人の方たちが関わってるということも出てきている。

昨年の懇談会の中でもお話したかもしれないが、奈良県の「たんぼぼの家」などが、お蚕をして絹を作ることをやってみたりとか、張り子の工芸品を障害のある方たちが作って、たんぼぼの家の場合は無印良品の新年の干支の置物を作るとか、そういう形で伝統工芸の担い手に障害のある方たちの力を使っているというところもある。

こういったこともあらゆる人々の表現活動のところにも合致するのではないかなと思う。あらゆる人たちの文化芸術活動というところで、今、うみのもり(千葉県障害者芸術文化活動支援センター)を私どもいろだまが請け負ってから3年目だが、コロナが少しずつ変わってきている中で(とはいえ福祉施設は重度の障害の方もおられるのでまだまだ緊張感がある状態だが、ゆっくり開いてはきている)、うみのもりの授業も本年はすべて対面になったことで、人材育成講座を2回開催したが、参加者数は1回目は40人、2回目の音楽の講座も40人と、昨年の倍どころではない参加者にきていただいた。

私ども基本的に郵送で広報している。もちろんSNSもウェブサイトもあるが、いろんなケアの仕事をしている合間に封筒を開いて見ていただく。保存率も紙媒体の方が高く、施設の職員さんたちがじっくり見てくださるといふこともあるので。本当にアナログ中のアナログだが、どうしてもSNSは全部流れていってしまい、一度見た後なかなか見つけづらいというのがある。これはあくまでも福祉施設だからだと思いが参考に。

相談業務もしているが、相談として多く来るのが、福祉施設の職員の方たちがアートの表現を施設利用者にしてみたいが、その担い手をどう育成していけばいいのかがわからないという問い合わせが多い。人材育成講座の案内をしながら、画材等のアドバイスも伝えている次第。それと同時に、障害のある方のご家族から、子供たちのアート表現をする機会が欲しいという問い合わせも多い。

相談は人口の問題もあると思うが、北総地域の方からのお問い合わせが多い。船橋市、八千代市、千葉市内など。私どもいろだま及びうみのもりの事務所は、一宮町にあるが、一宮に月2回八千代の方が通ってきているという状況になっている。

もし、予算をもう少しつけていただければ、拠点までいかなくとも、障害のある方が通える、絵を描く場所・音楽を表現する場所や、施設の方たちがより表現を施設利用者に伝えるためのブラッシュアップの場所というか、そういう場ができてくるといいのかなというふうに思ってる。

そして最後に教育の部分だが、うみのもりの母体であるいろだまというのは小さな造形教室（子供と大人の方の絵画教室）から始まっている。教育の部分を担ってきており、1998年から行っているので今年で25年目。その中で、色々な方たちを受け入れているからこそ障害のある方の表現の場を作ってきた。

実は、今年度千葉県の施策になると思うが、小学校に専門家派遣（千葉県学習サポーター派遣事業）というのが始まったかと思う。その中の1人として登録しており、小学校2校に、一つの学校は年7回、もう一つの学校に年10回ほど通っている。これは教員免許を持っていない表現者の方でも先生になれるというもので、特に田舎の地域、外房の方もそうだが図画工作の先生がほぼいない。音楽とか書道の先生は多くいるが、図画工作の先生はなかなか少ない。そういうのもあってお声がけいただいて、通っている。

結果的には小学生の指導よりも先生の指導の方が強いような感じがしている。先生の中には図画工作が苦手という方もおられて、千葉県の場合だと子供県展の時期になると学校に行くのが辛くなるという先生にお目にかかることもある。そういう意味でも、やはり専門家の方が1回来て何かを学ぶというのも大事だとは思いますが、定期的に行く機会も必要なのかなと思ってる。

文化の素地はやはり教育からだと思うので、そういった点でも、一つお話しさせていただいた。

【座長】

本日御欠席の委員のご意見をいただいているので御紹介する。

次年度以降の文化芸術施策についての御意見だが、「まだまだ文化芸術は敷居が高いと、自分とは無縁だといった意識があるのではないか。例えば、昨年実施

された江口寿史のイラストレーション展は、メディアでも取り上げられることが多かったが、こうした著名なものを取り上げることが、魅力向上に繋がるのではないか」というのが一つ。もう一つは、「高等学校文化連盟の部門ごとの加盟校数はばらつきがある。加盟が少ない郷土芸能や詩吟、剣詩舞等もてこ入れや支援があると隆盛につながるのではないか」という、具体的なお話をいただいている。

それから、私の方から少しだけ、皆さんのお話を聞いて感じたことをお話させていただきたいと思う。

委員の皆さんの御意見で、今年度の取り組みというよりも、こういう戦略でやった方がいいんじゃないかということが幾つか挙げられていたように思う。例えば先ほどから話題になってる伝統芸能、伝統文化のところだが、関心の醸成をしようとしているのが課題なのか、それとも次世代の人材の育成が課題なのか、それとも発表だとかの機会の充実っていうのが課題なのか、鑑賞者の育成っていうのが課題なのかを明らかにできればよい。また、すべてを1度にやるというのは不可能なので、順を追うということや、戦略として高めていくということも必要ではないか。

私が知っている日本舞踊家で、花柳 大日翠（はなやぎ おおひすい）という女性がいて、彼女は自分のオリジナルの日本舞踊の三部作「家電三部作」というのを持っている。炊飯器、電子レンジ、洗濯機という、家電の三部作。これが結構面白い。

面白いことをやると、見にくる人も増える。見に来る人が増えると、関心が高まる。先ほど話したインフルエンサーのような関係だと思うが、とても面白い。そういう人材もいるので、そういう方をファシリテーターとしてワークショップをやることも考えていった方がいいんじゃないか。

日本舞踊の清元（きよもと）の中で「流星」という作品があるが、雷様の夫婦が喧嘩するという話で、江戸時代からあるものだが、面白い。雷様が喧嘩するという話を日本舞踊でやる。それだけでも何となく関心が醸成されるような気がする。プログラムの作り方もそうやって考えれば、集客ができたり関心が増えたりする。子供が見ても面白いと感ずるので、雷様とは言いながら夫婦げんかしてるのを子供が見て笑ってるっていうのも、ちょっと面白いかもしれない。

それからもう一つ思わされたのが、戦略を立てる中で、県が直接それぞれに手を出していくのか。例えば、県と障害者の間にNPOだとか、専門家だとか、そういうファシリテーションをしてくれる専門家を間に入れてアプローチをしていく。それからお祭りなんかの話があれば、市町村を經由してアプローチをしていく。県も人材には限りがあると思うので、これだけの施策を立てて全県すべて手足が伸ばせるわけではないとすると、信頼できるパートナーを作っていく、見

つけていく。

もちろん千葉県文化振興財団や千葉市の財団など、場所を持っているパートナーというのもすごく重要だと思うので、そういう方達とのパートナーシップで作っていく、実行していくというのは一つのやり方ではないか。

それから、150周年を契機とした取組が一過性にならないようにというのは、この全体の計画自体もそうだと思うが、こういうものを記録としてしっかり残して、アーカイブ化していくということと、その情報を後でも見られるように発信をしていく、公開をしていくということが、継続性を作っていく1つの方法になるのではないか。

アーカイブ化していくのかというのはまた別だが、それだけでもホームページの価値が上がってくるような気がしている。

【委員】

事務局に質問だが、文化財保護法が最近大きく変わり、文化財総合計画を県が作るということになっているが、千葉県ではどういう状況になっているか。

【事務局】

文化財保護法に関しては教育庁文化財課が主に所管しており、今年の1月に文化財保護活用大綱の改正を行っている。

【委員】

そうであれば、基盤があるので。それをベースに色々な支援も可能になるかなというふうに思う。

(2) 次期「千葉県文化芸術推進基本計画」の策定について

資料2により事務局から説明し、各委員による意見交換があった。

<意見交換概要>

【副座長】

先ほど委員も議題1でおっしゃられていたが、千葉県は資源が多いが共有されていないのが課題なんじゃないかという話。実は私もその通りだと思っていて、ちば文化資産は今150あり、当初111だったが、その時も文化資産への応募が300から400ぐらいあったと聞いている。千葉は文化の宝の山なのではないかと思っていて、海のブランドデザインであったり、三方海に囲まれてることであったり、そういう自然の部分や、食文化のこと、本当に文化芸術に関してはも

う宝の山だと思っている。

ただ問題は、その資源がそれぞれ点でしか動いていないことだと思っている。この点が、例えば文化資産だけではなくて、サーフィンだとか、ゴルフだとか、そういったスポーツも千葉では盛んなのでそういったものと連携していけば、1つずつの点が大きくなっていて、拠点になっていくと。その拠点がまた、まちづくりにつながっていくんじゃないかなというふうに思う。

先ほど、千葉県文化会館が改修工事で休館中という話をしたが、休館中、県内の他の施設の方と一緒に公演をやっている。そうすると、今まであまり感じていなかった、施設ごとの色というか、例えば八千代市はどういうことをやりたいのか、佐倉市がどういうことを今までやってきたのか。市川市がこれからどういうことをやっていきたいというのが、それこそ文化芸術、パフォーミングアーツ舞台芸術になるが、すごく色があるなというのを感じた。

そういったことから、今、文化施設だけではなくて、様々な団体だとかそういったものが、有機的に結びつきながら大きくなり、最後にまちづくりに繋がっていくというのが、これから千葉県が進む姿として、文化芸術分野が進む大きな方向性として感じているところ。

【委員】

事務局に一つ質問するが、9 ページ SDGs の推進で、SDGs の視点による取組だが、私の中で文化芸術とこの SDGs の取り組みが結びつきにくい、どういったものを考えているのか。

【事務局】

伝統文化をただ残していくだけではなく、どうして必要なものなのか考えた上で、残していく取り組みの中で、SDGs の観点、雇用の平等であったりとか持続可能性のある取組だったりとか、そういった視点を取り込んでいきたいと考えている。

【委員】

誰もが文化芸術に親しめる千葉という言葉から、これも参考にというところではあるが、障害者芸術文化活動支援センターは 43 都府県 44 ヶ所に支援センターを、7つのブロックに広域センター、全国連携事務局を美術分野 舞台分野それぞれ計 2 箇所設置しており、各センターのかたと交流がある。

宮城のセンターをされている ABLE ART JAPAN (エイブルアートジャパン) の代表の柴崎氏の話だが、宮城でセンターを作るにあたって、宮城は非常に文化芸術に対して市民の受け入れ、理解が大きかった。その理由が、3.11 の時に、様々

なアート、音楽関係者がボランティアで入って、文化芸術が励ましの役割の一つとして入ってきたという経験から、市民の方たちは、文化芸術が生きる糧になるというのを実感している。それがあからこそ受け入れがよかったというようなご意見をいただいた。

千葉県も同じく海に囲まれているということは、津波の危険もある。私も一宮町に住んでいるので、この一宮町で、防災も踏まえながら生きていくってどういうことだろうと常々考えながら子供たちとの授業や障害を持った方との関わりを持っている。

やはり、アートは励みになることもあるし、アートが平常心をもたらす、表現をすることで、また次の力が湧くというような要素もある。それもこの文化施策の中の一つにもなり得るのではないかなというふうに思っている。そこが、文化を親しむということと言葉のニュアンスは少し違うかもしれないが、受け入れていただけるヒントになるのではないかなと思う。

【座長】

本日お休みの委員からの御意見をここで読み上げる。「現行計画はよく練られており、施策の柱や主な取り組みはよく網羅されていると思う。一方で、千葉らしさ、千葉県の特色は何かと言われると、とっさに答えにくい。簡素に表現できるわかりやすい特色を検討することで、大きな方向性に繋がるのではないか。」簡単ではないが、そういう訴求力のあるメッセージがあった方がいいということかもしれない。

それからもう一つ、「文化系部活動の最大の祭典である全国高等学校総合文化祭を2029年に千葉県で開催する方向で準備が進んでいる。千葉県の文化芸術振興が進む契機となるようにしたい。」こういうアピールするいいタイミングではあると思うので、ぜひそういうことも考えていただきたい。

【委員】

3点ほどコメントする。1点目は、次期計画に向けたプロセスについてだが、文化や、伝統芸能を含めた文化に携わっている団体や関係者など関係業界の方々の意見をどういうふうに吸い上げるのか、県民の意識がコロナが明けていろいろ変わってきてるかもしれないところ、コロナで傷んだのは人との人との間の繋がりということだと思う。結構色々な調査をしても、ライブのパフォーマンスに対するニーズが非常に底堅く、コロナが終わったら全部オンラインに代替してるかということそうでもないということもわかっている。県民の意識とか行動調査というか、何かそういう情報のすくい上げは、いつどういう形でやるのか。

2点目は、先ほどSDGsの話があったが、私が理解しているところでは、SDGsのポイントは持続可能性と、誰もが取り残されないということじゃないかと思う。障害を持った方とか、文化的背景が違う方とか、様々な方をインクルーシブに、この文化芸術に親しめるということがポイントというふうに思う。

今、日本中で一番大きい流れは人口縮退と高齢化であり、高齢者の方がより現役で働くことになるだろうし、またお元気な方も多と思われることから、こういう人たちがどういうふうに豊かに暮らせるか、ウェルビーイングという話もあるが、心豊かに幸せに暮らしていけるかというのも非常に大きな世界に対する発信でもあると思う。

世界的にも高齢化しつつあるので、そういったところを少し盛り込む必要があるのではないかなという感じが2点目。

3点目は、そうは言っても県がすべてやれるということではないので、関係の自治体や民間、NPO等、そういったところの役割分担というのが重要じゃないかなと思うが、一方で、文化施設は民間の企業ではとても提供できないサービスがあるので、自治体、政府がやるというのはリーズナブルだと思うが、この施設自体が、近年、より効率的、効果的に社会にどれだけメリットを与えられているかということが問われてきている。ミュージアムも壁の中に収まっているのではなくて、地域と連携をするとか、劇場も新しい広場とか、アウトリーチだったり、出前だったり色々な形で外と連携するというようなことやっていると思う。ここはやはり地方政府である県が、きちんとやるという主張をこの計画に入れてもらいたいと個人的には思う。

【座長】

私から一つ、SDGsの話があったのでお話しするが、最近、イギリスではシアターグリーンブックというものが作られるようになっていて、持続可能なプロダクションを作っていくというもので、その中で大きなテーマの一つが、環境負荷への軽減、ごみを出さないなど、今や文化もゼロカーボン、ハーフカーボンという環境負荷の低減というものが求められ始めてる時代に今なってると思っていただければよい。東京都もハーフカーボンを目指すといっている。

今シアターグリーンブックと言ったが、同じように考えればミュージアムグリーンブック、ユニバーシティグリーンブック、カレッジグリーンブックということもあるかもしれない。環境負荷の低減が、文化芸術の使命となりつつあるということも世界的な潮流だ。そんなことも少し意識をしていくことも必要。

【委員】

今の点について言うと、例えばミュージアムは、オゾン層破壊物質に関するモ

ントリオール議定書に沿って、燻蒸用のガスのうち特定のものを使わなくなっている。外部状況がどんどん変わっていて、それに合わせて実態も進んできているので、これらのことをこのSDGsに紐づける必要があると思う。

【座長】

そういうことも、今や重要な課題になってるということ。

文化芸術基本法に書かれてるとおり、文化はそのものの価値もあるが、その地域の活力を高めていくだとか、そこに住む人たちの心の豊かさを醸成していく、調和ある国際社会への貢献もうたわれている。資料に書かれている多様性を認め合うということだとか、そのことによって寛容さをつくり出すことによって、ひょっとしたら今揉めている国際情勢も、本当は文化を理解すれば、解決の道筋はあるんじゃないかと考える。そういうことも大きな文化の価値、それが訴求・波及する効果という価値も認めていく必要があるだろう。

それから、文化などの資源の素晴らしさがなかなか地域に広がっていかないという話はよくあるが、自分たちの持っている文化の価値を理解してないとか、評価していない。おいしいもの食べている町の人たちはそれが普通だと思っていて、他の土地へ行くと飯はまずい、水が美味しくないということはよくある。そういう自分たちの持つ文化の価値をちゃんと理解することも重要な課題なんじゃないかなと思う。

先ほど副座長が言われたように、文化資産は150あるが、でもその価値を、実は千葉県民が一番理解していないのかもしれない。そこに大きな課題もあるのではないかなと思った。

【委員】

ロックインジャパンの誘致は誰がしたのか。

【事務局】

千葉市が行ったと聞いている。

今回、ロッキンに来ていただいたことでバンドのオーディションや、バックヤードツアーをやって、主催者と良い関係を築き、これをまず根付かせていきたいということと、こういったものが千葉で根づいていることを生かしてさらに他のイベントを呼び込めるような環境が千葉にあるということを発信していきたい。

【副議長】

今年は高校生バンド等も、県の方で募集をしてオープニングアクトとして出

演したりしていて、県全体で盛り上がっている感じがした。

【委員】

プロがやる前に、高校生が演奏できるっていう。だからまた盛り上がる。その仕組みは良いと思う。

【座長】

総合計画の期間とこの次期計画との期間という話があったが、私は外から見ていて、総合計画に書かれると行政が必ずやらなきゃいけないことだと思っていて、その他の計画というのは、そこまで強制力のないものだという印象があるため、総合計画策定の前年にこの期間を終わらせて、新しい評価をして方針を出したものが総合計画に乗っていくというようなスキーム、スケジュールが出ると、総合計画は確実に行政がやるものだと思うので、文化振興を実現していく一つのテクニックとしてあるのかなと思った。

【委員】

総合計画は地方自治法でかつては絶対作らないといけなかったが今は法律的には非常に強制力が小さくなっている。ただ、行政は計画を立てれば、大体予算の枠組みの中で使える武器になる。総合計画においては、各分野は総論でしか入らないのでむしろこちらの計画をきちんと作成した方が、財政当局の理解を得られるのではないかな。

(3) 次期計画策定にあたっての懇談会の体制について

資料3により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見交換概要>

【委員】

茨城、群馬、神奈川の審議会に関わっているが、実演者（表現者）の方が委員に入っていることが多いと感じる。どこの分野のどの方を委員に選定するかというのが難しいところではあるが、例として、茨城の場合は陶芸が有名（笠間焼等）であることと、伝統芸能が強い。なので、その分野の方で御意見をいただける方を選んだように思う。

ただそれだけでは足りないところもあり、他にも色々な形で文化芸術団体を集めて、或いは文化団体協議会等を通すなど、様々なチャンネルを使いながら意見を集約しているように見受けられた。

【座長】

確かに文化は幅が広いので、今日ご出席いただいている委員ですべてを包含できると言うとは疑問もある。特に生活文化、食文化であれば、逆にあるのかもしれないが。

この辺が手薄なんじゃないかとか、こういう人の意見も聞いたほうがいいんじゃないかというようなことがあれば。

【委員】

万祝の鈴染（すずせん）はいかがか。鴨川で万祝染めをしている方だが、千葉そごうで千葉の伝統文化を表出したワークショップの依頼を受けた際に、鈴染に万祝をお借りしてそれを展示し、ワークショップではあらかじめ模様を印刷した法被に参加者が色をつけるということを行ったが、その際に色々とお世話になった。

ホームページを英語で表記されたり、文化を引き継ごうと懸命になさっておられるので、それを応援するという意味も含めて、ご意見を伺うのいいのではないかと思います。

【委員】

今回の計画を作られた時に、文化団体向けのアンケートをやっていると思うが、例えばそれにもう少し自由表記というか、意見募集をするのも一案なんじゃないか。

文化団体だけではなく、いろいろなアーティストの方だとか、それぞれの業界の方から推薦もらったりしながらやってくと、サンプルが沢山集まるのではないかと思います。

【委員】

今回のキーワードは誰もが文化芸術に親しむということだが、いつも話しているが教育ということだと思う。自分が子供の頃からもっとこういうものに親しめてたらいいなと思っていた。ヒアリングすることができるのであれば、例えば小学校だとか中学校の義務教育の先生方だとか、もしくはそういう方に携わっている方なんか聞くのが良いのではないか。教育分野とか、学校授業だとかなんかでこういうのを楽しめるような仕組みになればいいなと思っているので、そういう方も参加できる、もしくは意見を聞ける仕組みがあったらいいなと思う。

【委員】

今までの御意見をを受けて、やはり千葉県って（面積・形が）長い、大きいので、色々な課題はあると思うが。南房総の方、委員から鈴染の名前が具体的に挙げたが、南の方の活躍されている方、或いは教育に携わっている方というのが入っていただけるとより千葉県の魅力を高めていくという意味ではいいかと思う。

今日色々な話題が出たが、課題の一つとしては、やはり文化芸術の担い手、その主体性というところではないか。

誰しものが文化芸術に親しめるということは、消費的に親しめることと、主体的に親しめるということがあると思うが、この2つは全然違うと思う。そのようなときに、やはり南房総のことをわからずにここで議論するよりも、委員なのかオブザーバー的にお話を伺うのかはまた今後なのかもしれないが、ぜひそんな形でも入っていただけると良いと思う。

千葉県は主体的な人を育てていけるような文化芸術のあり方を、何か展開していけるといいかなというのが勝手な希望。

【座長】

地域性みたいなものもあるのかもしれない。ちょっとその辺は我々には肌感覚がないので、逆に教えていただければと思う。他にご意見があれば。

【委員】

先ほど座長の方で、地域の方は地域のものが本当にいいものであることに気づかないという話があった。やはり、地域の歴史と一緒に紐解いていくというのがとても大事だと思う。なので、地域の歴史を掘り起こすことで自分たちの地域にこんなにもいいものがあると気づかれる場合が多いので、ぜひ文化芸術振興を進めるにあたって、歴史と一体的な掘り起こしをしていただけると、よりその地域の人たちも自分たちの地域にもっと誇りが持てるのではないかと思う。その点も少し、入れていただけるとありがたい。

【座長】

今回の計画も最後は何らかの形で評価をされると思うし、先ほどアンケートの話もあったので、県民に公表してパブリックコメントをいただくとか、それを記録に残してまた情報発信していくというようなことも、お考えいただければ次に繋がるのかなと思った。もちろんその結果から、新たな専門性のある委員の方を増やす、或いは少し関わっていただくということも含めて、検討をお願いできれば。もちろん、機会に応じて参考人というのも一つのアイデアだろうと思うので、ぜひご検討いただければ。

【事務局】

議論拝聴している中で、実は県の方でも、多様性条例の設置を進めているというところもあり、また当然のことながら我々環境生活部であるので、ゼロカーボンに向けた取組も進めているというところ。

どうしても文化振興の中で留まってる、視野が狭くなっているところ、やはり県の全体の施策の中で取り組んでいかないといけないと改めて認識させられた。

また他の点についても御意見賜り、次回に向けて対応させていただきたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。